第18号 ながえの里だより（2008年春号）平成20年5月10日発刊 庄原同仁病院新聞委員会 庄原市川北町890-1 0824(72)7300

ながえの里だより

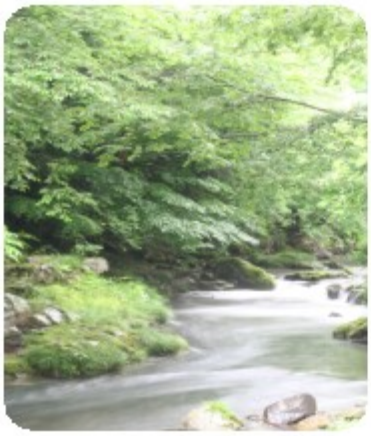
【基本理念】　私たちは、すべての人に等しく　仁愛の精神を持って接し、心の通う医療の実践に努めます。

【基本方針】　責任：生命の尊厳を第一の課題として重んじ責任をもって行動する
安全：すべての行為に対して細心の注意を払い安全の確保に努める
協調：チーム医療に徹し互いに協調しその実をあげることに努める
奉仕：すべての患者さまを等しく仁愛の精神を持って接し医療を通じて社会に奉仕する

自然が療養にもたらすもの

村尾文規

今、まさに、周囲の森や林は緑一色である。日本人は、この色名に萌黄色、若草色、柳色、翠色、青竹色、常盤色などなどの色名を当てている。日本人が、感性豊かで、細やかな感情を持っているからこそ生まれた色名であろう。この感性は、今に始まったことではない。緑の連なりに翼を借りて悠々の時空を旅して縄文の森に思いを馳せてみる。我々の祖先は森を住処とし、すでに、大木を伐採して住居を建てる文明を持っていた。森林や樹木を眺めることで知性的、理性的な力を心宿し、それらを信仰の対象としていたことは想像に難くない。森や樹木は、やがて邸宅の庭に形を変えるところとなり、月の出入り、彼方の林や森を背景として庭の一部に取り込むように設計されるようになった。庭は、さらに、坪庭、盆栽、生け花として家の中に納まるまでに変化した。自然は、悠々の昔から私たちの人格形成にも深く関わっていることは間違いのない事実である。生い茂る樹木のあふれるばかりの生命力を表す緑がわけもなく勇気を与えてくれる。森の荒廃が叫ばれて久しいが、時を同じくして世間には殺伐としたニュースが蔓延してきた。両者に密接な関係があるのではないかと思うのは私だけであろうか。森や樹木が心の内部まで浸透して影響を与えたであろう縄文の記憶は今も脈々と続いているはずである。だからこそ、自然には、人類の力を超越した包容力を感じる。肩の力を抜いて森や樹木を眺めてみる、音を聴いてみる、触れてみる、そこに、必ず、時がゆっくりと流れる精神世界が生まれるはずである。



病院お花見見学会

西村美智子

4月15日(火)、北地域の皆さま対象にお花見見学会を開催しました。地域の方約20名が来院され、当院の周りに植えてある桜の木の下で、栄養課手作りのお菓子を試食して頂き、当院職員と歓談後、院内を見学されました。当日は天候にも恵まれ、満開の桜の木の下で、花びらが舞う中、気持ちのよいお花見見学会となりました。

ご参加された皆様には喜んで頂き、また職員もいろんなお話を聞くことができ、良い交流の時間が持てたこと嬉しく思いました。

また地域の方々との歓談の中で、この地にあった中学校の思い出話などを聞き、思い出の地に建った病院を、今後も地域の皆様のために発展させていかなければと、改めて思いを強くした一日でした。

ご参加くださった皆様ありがとうございました。

院内に花を

職員の思い

毎朝、母が切ってくれる花を何げなく受付に飾っていましたが、「これは何の花？」「こんな種類や色もあるんですね」と声をかけて下さる方が増えてきました。静かな環境の中に病院がありますから、患者様や訪れる方に、院内どこにいても四季折々の花や木が見れ、癒しを提供できるような環境作りを願っています。

佐倉和子

おととしの秋、18年間勤めた地元の会社が突然閉鎖された。地元に働く場所をと頑張ってきただけに、想像以上の無気力感におそわれ、このままではいけないと思えるようになるのに半年かかった。そんな時、職業訓練センターの園芸科募集の案内を見、これからの人生、自分の好きな事を仕事にできればと受講しまし、そうした流れでこの病院に就職しました。何事も初体験、ウハウハ、ドキドキの毎日も、周りの人達の何気ない会話に励まされてはや4ヶ月、目標はこの病院の素晴らしい庭を手入れし、できることなら、色とりどりの花で一杯にして、いつも閉めっぱなしのドアを患者さんや職員さん自らの手で開けて見に行こうと思ってもらえるような、癒しの空間をつくることです。

坂元春江

患者様お花見会

満開の桜の下でお弁当を食べる予定でしたが、
残念ながら雨で室内でのお花見になりました。
梅酒など季節を感じる食べ物に患者様は喜ばれていました。

お花見会に参加して

生憎の天気で桜の下での食事とはいきませんでしたが、患者の家族としてお花見に参加して食事介助をしました。職員の私が言うのも…ですが、患者一人一人に合ったお花見弁当に箸入れまで手作りで大変感激しました。普段の給食の準備も大変でしょうが、イベントがある度に感謝しております。　お花見弁当は旬の食材（タラの芽・ワラビ・土筆等）で大変おいしく頂きました。（私も少し味見をしました…美味かった！）　　山崎壽久

患者様お花見弁当　　松原まゆみ

病院の桜も満開になり、今年も4月10日に患者様のお花見が行われました。栄養課では、心のこもったお花見弁当を作ろうと皆で案を出し合いました。旬の食材を使おうと職員さんの家の畑、野山から、家族の方にも手伝ってもらい摘んだつくしは、ひとつひとつ袴を取り、卵とじ、こごみは天ぷらに、葉わさびは辛みを残してあえものにして、お弁当を旬のもので一杯にしました。

患者様が「おいしいね」「これはつくしじゃ～」「これは庄原の高町や川北で取ったんですよ」などと話もはずみました。
食事制限のある患者様にも同じ弁当を食べていただきたく下準備に工夫をこらしましたがいかがでしたでしょうか。

つくしの卵とじ

藤棚のもとで　お茶会

5月8日満開になった病院の中庭にある藤棚のもとで、患者さんのお茶会がおこなわれました。桜の花が終わった中庭には、はなみずきやサツキが花をつけ藤の花とのコラボレーションで患者さんを迎えてくれました。お茶うけには栄養課職員手作りの抹茶水羊羹がだされ、患者さんは、花と緑に囲まれた中庭でのひと時を満喫されていました。

抹茶水羊羹

たくさんの患者様が参加されての藤棚のもとでのお茶会がひらかれました

病院の桜を見に来てください　西村悦子

当院は、旧北中学校のグラウンド跡地に21年前に開設しました。
建物の周囲には中学校時代からの大きな古い木と病院開設後に植えられた若い木の約50本の桜があります。毎年春を待ちわび、桜の開花を予想します。可憐な咲き始めから満開へ、桜吹雪の舞う下を患者様と一緒に散歩します。

寝たきりで重度障害のある人たちの発揮できる能力（残存能力）に注目して、見る、聴く、触る、嗅ぐ、味わうといった五感へ働きかけるレクリエーション援助が効果的である。そう考えると天気の良い日に車椅子に乗って外に出て散歩することは、五感を刺激する最適なレクリエーション援助の一つと理解できる。太陽の眩しさを感じ、風を肌で感じ、草木の香り、小鳥のさえずり、生活のさまざまな音、これらを体全体で感じること、それがたとえ主体的なものでなくとも、瞬間、瞬間のＱＯＬ（生活の質）の向上に貢献しているレクリエーション援助なのである。

『福祉レクリエーションワーカーのテキストより』

私達だけで楽しむのはもったいない、是非、地域の皆様にも見ていただきたい、そんな想いから今年は、職員駐車場を少しの間移動し、テーブル、椅子を置きお花見会場を造りました。職員手作りの雪洞もつけました。
来年も計画の予定です。お待ちしています。

院内にＡＥＤを設置しました

当院、受付横にＡＥＤ（徐細動器）を設置しました。自動音声案内装置がついていますので、音声案内に従えばいざという時も安心して使用できます。

川北小学校のみなさん

川北小学校の児童の皆さんが、４月25日、庄原同仁病院へ遠足に来られました。患者さんの前で、歌や自己紹介などを笑顔一杯で披露してくれました。

新聞委員のつぶやき　～毎日の日常生活で～　伊達信介

この4月からの新年度は、今一度、基本に立ち返り、患者さんに対して挨拶、声掛けをしっかりしていこうと心掛けています。

現在、1病棟では摂食委員を中心にして、発声練習を含めた口腔ケアを毎日、日替わりで患者さんを決めて行っています。脳血管障害で多少言語障害がある患者さんが少しずつではありますが、はっきりと分かりやすい言葉を話されるようになってきているのには、多少の驚きと、いっぱいのうれしさがあります。
また、寝たきりで会話すらできない患者さんに対しても、身体介護をさせてもらう前に事前に声掛けをして行為をする基本的なことが忘れがちであり、反省すべき点でもあります。

私自身まだ未熟でというのでなく、介護のプロとして、これからも知識、技術を学び患者さんから信頼される介護者を目指していきたいと思っています。